

ユーザー視点で「使いやすさ」を追求した 製品開発と知財戦略を実行、さらなる事業拡大を目指す

本 社 〒401-0201 山梨県上野原市秋山10420番地

U R L <https://www.youtube.com/@OCHIAIWORKS>

業務内容 プラスチック射出成型品の製造・販売

設 立 1984年 資 本 金 2,700万円 従 業 員 数 8名



代表取締役社長 落合昭年氏

有限会社落合製作所は、取引先からの委託により、ゴルフクラブ用グリップ(商標名「UP FEILD」登録第6829140号)をはじめとするプラスチック射出成型品の製造・販売を行っている。当業界においては、数量の多い製品は海外に移転され、国内には少量多品種生産のみが残る状況となっており、同社はそのような少量多品種の製品を主に生産している。

■ きっかけは模倣品対策の相談

山梨県に拠点を置く同社は、プラスチック射出成型品の製造・販売を行う中小企業である。同社は、射出成型品の製造に使用されるプラスチック射出成型機のユーザであるが、当該プラスチック射出成型機の製品取出部に関して、ユーザ目線から使い勝手の良い部品(商品名:「ここで吸う」、商標第6791998号、以下「本件装置」という。)の開発を進めており、本件装置等に関して上野原市商工会の連携依頼を受けたINPIT山梨県知財総合支援窓口(以下「山梨窓口」という。)の支援を受けながら特許・意匠・商標を取得、プラスチック機器の国際展示会であるIPF(International Plastic Fair)へ出展するなど積極的に活動を行っている。

本件装置の特徴は、磁石、金属製吸引部&プラスチック製吸引部の3部材で構成した点にある。磁石を用いることで射出成型機内の金属板に本件装置を自由自在に配置する事が可能となり、作業性が大幅にアップすると共に、プラスチック部材を用いることで軽量化が実現されている。

取材企業の声

成形加工の国内での受注環境は、多品種少量傾向にあり、アタッチメントの費用と段取りをどうおさえるかが、利益確保に大きく影響して居りました。この問題を解決するための発明が、「ここで吸う」なのですが、同じ問題にお悩みの成型加工メーカー様のもとへお届けするための注意点など、ご相談に乗って頂き、新商品の開発、製造に安心・安全に取り組みしております。現在、製造業取り巻く環境は、大変厳しい状況では有りますが弊社の商品がわずかでも、利益につながっていくことを心より、願っております。

(同社代表取締役 落合昭年氏)

そんな同社への支援のきっかけは、本件装置の模倣品が発生したことであった。中国企業による模倣品が流通しているとの情報を、代理店経由で入手した同社は、対策について山梨窓口にご相談。山梨窓口から海外展開知財支援窓口を紹介され、知財戦略エキスパートの支援を受けることになった。

■ 模倣品対策から知財戦略構築へ

支援依頼を受けた知財戦略エキスパートは、山梨窓口の担当者とともに同社に対してヒアリングを実施。知財戦略エキスパートは、模倣品に関して、中国企業の技術レベルは着実に向上しており、近い将来本件装置の脅威となるリスクを説明。そのリスクについて十分に理解・納得した落合氏から、模倣品対策を含めて本件装置の知財戦略構築を進めたいと支援依頼があり、解決すべき課題に関して、優先順位をつけながら計画的に解決を進めることになった。

■ オールINPITでの知財リエゾン

知財戦略エキスパートは、落合氏が持参した試作品およびポンチ絵をもとに、ブレーション形式で議論を実施し、技術アイデアの棚卸を行った。そのうえで、今後の展示会スケジュール、事業展開の計画、他社との協業状況などを踏まえ、出願・権利化すべき技術の優先順位付けを実施した。

この議論には、知財戦略エキスパートに加え、窓口の近藤功氏、同窓口が専門家として招聘した望月義時氏なども参加し、オールINPIT体制による多角的な検討が行われた。その結果、適切に優先順位をつけて順番に特許出願を進めており、知財で新規事業を適切な形で保護し更なる躍進を目指している。

■ 知財戦略に関するリテラシーの向上

さらに、知財戦略エキスパートは、自社の知財権の取得を行うことをアドバイスすることに加え、同社の事業全体を俯瞰したうえで、事業展開の段階に応じて、協業先等と適切な契約を締結することで自社の優位性を確保していくことや、工場への第三者立ち入りに係る改善案を提示し、自社の秘密情報管理を適切に行うようアドバイスした。

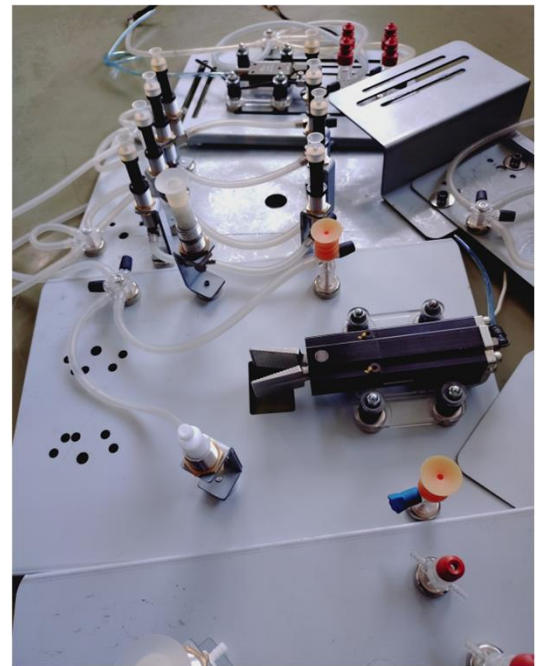
当初はこの模倣品対策に関する相談だったが、知財戦略エキスパートの支援はそれだけにとどまらず、同社の新規事業の事業戦略と連携した知財戦略や知財契約マネジメントに関する幅広いアドバイスに及んだ。

知財戦略エキスパートによる支援について落合氏は「支援により、新商品の開発、製造に安心・安全に取り組めるようになった」と振り返りながら、「自社の強みを守っていくべく今後も継続して知財戦略エキスパートに相談していきたい」と述べ、引き続き知財戦略エキスパートの支援に期待を寄せている。

支援を振り返って

支援先の有限会社落合製作所の代表取締役・落合氏は、同社の新規事業としてプラスチック射出成型機の製品取出部に係るユーザ目線の改良品の開発を行っている。当該改良品に係る事業戦略と連携した知的財産戦略の立案・実行に関する支援をオールINPITで継続する所存である。

(知財戦略エキスパート 松島重夫)



同社製品「ここで吸う」

知財戦略の重要性を学んだ同社は、INPITのIPランドスケープ支援事業への応募の準備を並行して進めており、また、補助金等様々な公的支援施策等も活用していきながら、自社の強みを確保していく予定である。

同社は、引き続き知財戦略エキスパートの助言を利用しながら、知財マネジメントを利用した同社事業の更なる展開を目指していく。



同社/本社

今後の 事業展開

今後も知財戦略エキスパートの支援を受けながら、事業戦略に紐づいた知財戦略や契約マネジメントの立案・実行を進め、射出成型品自動取り出しアタッチメント「ここで吸う」を始め、自社製品の更なる事業展開を進めていく予定である。